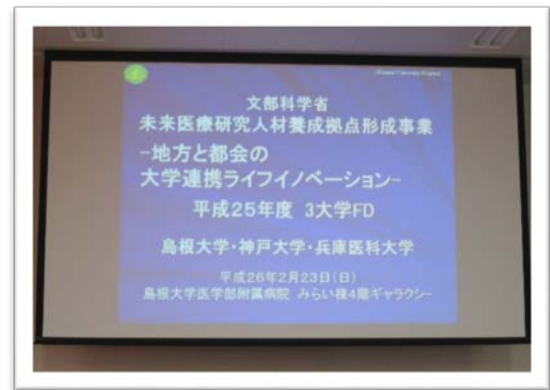


「地方と都会の大学連携ライフィノベーション」3大学合同FDに参加しました。

平成26年2月23日(日)の午後1時から、島根大学医学部附属病院みらい棟4階ギャラクシーで開催された、平成25年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「地方と都会の大学連携ライフィノベーション」3大学合同FDに参加しました。

「地方と都会の大学連携ライフィノベーション」は、我々と同様、未来医療研究人材養成拠点形成事業のテーマB：リサーチマインドを持った総合診療医の養成に選定されたプログラムです。はじめに、島根大学医学部附属病院長の井川幹夫先生より開会の挨拶、島根大学のプログラムコーディネータの廣瀬昌博先生から、プログラムの概要説明がありました。大学の役割として、リサーチマインドを持った総合診療医の養成が求められているが



同時に地域包括ケア人材養成も、2025年問題を考えると重要な課題になっています。連携している島根大学、神戸大学、兵庫医科大学では、3大学の相互補完により地域包括ケアシステムを構築し、大学連携による総合診療医の育成をはかるということでした。



次に、第1部として、秋田大学大学院医学系研究科医学教育学講座教授の長谷川仁志先生から、「すべての医師・医療者が総合力をつけるためのこれからの医学教育世界最高齢社会・日本の国情に合った展開は？」と題しての講演がありました。医師が学ぶべき医学情報はどんどん増えており、医学教育の質保証が必要になってきています。現在の医学教育は知識の詰め込みになっており、動脈硬化状態、カリキュラムの癌化とも言われています。医師国家試験で実技試験がないのは日本だけで、これはある意味ペーパー試験だけで自動車免許を取得するようなものです。

これからの超高齢社会に対応するためには総合診療部門の充実が必要で、何科の医師としても当然、総合診療能力・問題解決能力・コミュニケーション能力が必要になってきます。これからの医学教育は、各分野の総合的な部分の診療能力を精選し、各分野及び学年横断的に経験保証する総合教育を展開することが求められています。

第2部では、「地域包括ケアシステムを通じた総合診療医育成にむけて」と題してパネルディスカッションがありました。

まず、津和野共存病院長の須山信夫先生から、常勤医師4人だけで地域包括ケアシステムを構築している病院の現況についてお話しをいただきました。常勤医師4人でも地域包括ケアシステムの構築は可能だが、危惧するのは、医学生、若い医師がケアシステム自体の存在をほとんど理解していないのが現状で、大学が地域包括ケアシステムに関わり、医学生・若い医師に重要性を教示する、地域包括ケアシステムのなかで研修医を育てることが大学のこれからの重要なテーマであるとのことでした。



ディスカッションでは、「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」プログラムでは、様々なカリキュラムを提示し、リサーチマインドを持った地域包括ケアシステムに取り組む総合診療医を育てることを目標にしていきたいとお話をいただきました。

我々からは、積極的にプログラム間の交流を図り、お互いのプログラムの参考になる点を共有してよりよいプログラムになるようにしていきたいと、要望をさせていただきました。

これからも今回のように積極的に他のプログラムのイベントに参加し、交流を図り、お互いに参考に出来る部分を共有していきたいと思えます。